

## あいさつ

東山梨教育協議会会長 武井茂光

東山梨教育協議会の研究成果を収録した「東山梨教育研究」が、今回で第51号の発刊となりました。この研究集録が、東山梨教育協議会の創立以来、多くの先輩方より引き継がれ、真摯に築き上げられてきた実践の成果であること、また、東山梨の子ども達のより良い成長のために、教育三者が一体となって進めてきた組織研究の成果であることを考えると、その意味の持つ重さを感じずにはられません。

さて、今年度はいじめ、体罰問題等、学校教育に対して、社会的に大きな関心の目が向けられました。また、今の子ども達を取り巻く環境は、児童虐待、いじめ、経済的困窮家庭の増大、家庭や地域の教育力の低下、メディア環境からの子ども達への影響など、非常に厳しい憂うべき状況になっています。このような環境の中で、子ども達の健全な成長が歪められ、学校現場ではこれまでにない多くの課題が山積しています。学校教育の目的である、一人一人の子ども達に「生きる力」を身につけた人格の完成と、民主的な社会の形成者としての成長を保障する教育は、学校現場だけの力では成り立ちません。学校、家庭、地域が力を合わせて取り組むことが必要不可欠です。学校、家庭、地域がそれぞれの責任と役割をしっかりと果たすと共に、三者が連携し合い共通の課題に対して取り組むことも、非常に重要だと思います。

今、学校現場は、いじめや体罰問題などを発端に、社会から色々な視点で評価されるターゲットになっています。学校現場では、この現実をしっかりと受け止め、これを機会にこれまでの取組を謙虚に見つめ直し、改善すべき所は改善していくことと、日々の教育課題を解決していく上での、個々の教職員の力量と学校教育力を高めることが求められています。それと同時に、今の学校現場が抱える最大の課題である、教職員の多忙化の問題を解消していくことが求められます。子ども達が抱える課題を解決する手だての大きな方向性は見えていると思うのですが、日々の教育実践に費やす時間的保障がない中で、現場は苦悩しているのが現状だと思います。この課題を克服するには、35人学級の実現、更に30人学級の実現や加配教員数の増加がどうしても必要となります。県レベルでの35人学級は前進していますが、国レベルでの35人学級は、新政権で大きく後退をしました。また最近、道徳の教科化も問題となってきました。このように、子どもの教育問題を考える時、政治的な関わりも避けて通れない大きな課題であり、私たち教職員は、目の前の子ども達が抱える課題解決との両輪での取組が必然的に求められます。

こうした状況だからこそ、校長会、教頭会、教連が力を合わせて、保護者、地域、行政、学校間での連携を深めながら、未来を担う子ども達の教育のために、力を尽くしていかなければならないと思います。そういう意味で、今年度の研究をこの集録にまとめ上げ、成果と課題を明確にする中で、来年度に生かし繋げていくことが、必要なのだと思います。

終わりに、全ての教職員の皆様、並びに研究推進の中心となり尽力して頂いた先生方をはじめ、私たちの研究活動に物心両面にわたり支え指導して頂きました多くの方々に、心からお礼を申し上げ、あいさつとさせていただきます。